

柴田祐輔 個展『BGM』開催のご案内

展覧会名：柴田祐輔 個展『BGM』

会 期：2014年3月15日（土）～4月20日（日）

- ・本展のオープニングレセプションを、初日の3月15日（土）18～21時に開催します。作家も在廊いたします。
- ・会期中は、月曜 17～23時および金・土・日 13～19時のオープンとなります。
- ・なお、初日も通常通り13時からオープンいたします。

会 場：waitingroom（東京都渋谷区恵比寿西2-8-11 渋谷百貨ビル4B）

waitingroomでは2014年3月15日（土）～4月20日（日）まで、柴田祐輔 個展『BGM』を開催いたします。waitingroomでは初の個展となる柴田は、2013年の六本木アートナイトでのパフォーマンス作品『クリーニングディスコ』や、Art Center Ongoingでの個展『惑星』が話題を呼んだ、現代美術作家です。本展では、「見るものに都合よく解釈された世界、“良い物語”からの脱却」をテーマに、現実とフィクションの関係に着目して作られた映像や写真などで構成される、新作インスタレーション作品を発表します。



(左) 『クリーニングディスコ』パフォーマンス風景（2013年、六本木アートナイト、東京）、パフォーマンス、60min.
(右) 『惑星』展示風景（2013年、Art Center Ongoing、東京）、ミクストメディアインスタレーション、サイズ可変

作家・柴田祐輔について

柴田は、1980年福岡県に生まれ、武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業後、2007年に武蔵野美術大学大学院美術専攻版画コースを修了しました。現実世界の曖昧さや不確かさに着目する作品をテーマに、国内外で精力的に発表しています。近年の展覧会として、2013年個展『ドリブル』（Centro Cultural Borges / ブエノスアイレス・アルゼンチン）、2013年個展『惑星』（Art Center Ongoing / 東京）、2013年「六本木アートナイト2013」（六本木 / 東京）でのパフォーマンス『クリーニングディスコ』、2012年個展『Visible Planet』（FAB Gallery / アルバータ、カナダ）、2012年グループ展『The Fine Art of Schmoozy』（Latitude53 / アルバータ、カナダ）、2011年グループ展『入ってはいけない家』（黄金町バザール / 神奈川）が挙げられます。

ありのままの現実が、虚実を共に携えたままの混沌として、ただただ私たちの目の前に存在する

柴田の作品は、「現実とフィクションの関係が相反するもののようでありながらも、実際は密接で常に表裏一体のものである」という作家の興味から、人やモノ・出来事を通して虚実性に着目して作られています。かつて9.11が起こった時に、米政府の会見をハリウッドが演出したように、現実社会において、虚実の関係性は境界線の曖昧なものであり、すでに何が本当のことで何が嘘なのかという問い自体が、現実の前では成立しえないと作家は言います。そして、語り手によって同じ歴史が全く異なって伝えられていることが示すように、現実是我たちの都合のいい形で解釈され、物語られることで、その有り様を限定されてしまうと。

柴田は作品を通して、現実が内包する虚実の揺れや、語られる主体によってその姿を変容させられた現実とありのままの現実との距離・ズレを切り取ります。そのズレを明らかにすることによって、「ありのままの現実が、虚実を共に携えたままの混沌として、ただただ私たちの目の前に存在する」、そんな状況を作り出します。作品を通して、現実社会の混沌の深部を目にする時、私たちはそこに何を見るのか？



『昨日の準備』展示風景（2010年、黄金町バザール、神奈川）
ミクストメディアインスタレーション、サイズ可変

見るものに都合よく解釈された世界、“良い物語”からの脱却

語り手によって見るものに都合よく解釈された“良い物語”からの脱却が、柴田の作品の大きなテーマとなっています。そして、作品が混沌としたありのままの現実のわからなさを、より深く知覚するための突破口となることを目指しています。

「私は作品で、現実社会において、限られた範囲内で物語が共有されている状況を作り出します。それはまるで現実体に当たりしているかのように強引に、唐突に現実中に物語を持ち込むのです。その物語は無意識に共有される“良い物語”とは違い、言わば皆と共有出来ない孤立化した物語であり、私たちに違和感を伴って、物語の存在を外側から客観的に把握させてくれます。私は無意識に共有される“良い物語”から脱却する為に、現実中に於ける物語の所在を明らかにした上で、この物語が現実とどのような関わりを持つことが出来るのか、その有効範囲を探ろうとしています。時に、既に現実に入り組んでいる物語を加速させたり、実際の出来事に於いての偶然と必然の関係を揺さぶったり、実際の会話を台詞に起こし、演技が真実と入れ替わる瞬間を捉えようとしたりして、突拍子もない孤立化した物語が現実と深く結びつくクライマックスの瞬間を捉えることで、虚実の関係が密接で曖昧であるありのままの現実へアプローチしようとしているのです。(柴田祐輔)」

写真や映像、彫刻など、様々なメディアを用いて現実社会に深く切り込む、柴田のインスタレーション空間に是非ご期待下さい。

連携：トーキョーワンダーサイト渋谷・本郷 「アジア・アナーキー・アライアンス」展 サテライト・プロジェクト「AAA東京アライアンス」



『局地的雨』2013年、Single channel video with sound / 7min 03sec



『Florida Street』2013年、Single channel video with sound / 4min 14sec

柴田祐輔 Yusuke SHIBATA**作家略歴**

- 1980 福岡県生まれ
2005 武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業
2007 武蔵野美術大学大学院美術専攻版画コース修了
2011 文化庁 新進芸術家海外研修員

個展

- 2013 『ドリブル』, Centro Cultural Borges / ブエノスアイレス, アルゼンチン
『Open Studio』, La Ene / ブエノスアイレス, アルゼンチン
『惑星』, Art Center Ongoing / 東京
2012 『ハウツー』, g-FAL+FAL / 東京
『Visible Planet』, FAB Gallery / アルバータ・カナダ
『棒読み』, Latitude 53 / アルバータ・カナダ
2010 『仮定ビート』, Art Center Ongoing / 東京
2008 『クロマキー』, 西瓜糖 / 東京
2007 『知らない祭』, petal fugal / 東京

グループ展

- 2013 『アートプログラム青梅2013』, 青梅織物工業協同組合施設 / 東京
『Ongoing 祭りーArt Fair Ongoing-』, Art Center Ongoing / 東京
『六本木アートナイト2013』, サンランドリー / 東京
2012 『阿波紙と版表現展』, 文房堂ギャラリー / 東京
『The Fine Art of Schmoozy』, Latitude53 / アルバータ・カナダ
『Just Draw』, Dc 3 Art Projects / アルバータ・カナダ
2011 『Essential Ongoing 静寂と狂気』, 新・港村ギャラリー / 神奈川
2010 『入ってはいけない家』, 黄金町バザール / 神奈川
『3331 シークレット・オークション vol.3』, 3331 Arts Choyoda / 東京
『arteBA'10』, AZUL AND VERDE PABILLIONS / ブエノスアイレス・アルゼンチン
『5th dimension』, 旧在日フランス大使館 / 東京
2009 『One Day』, Haru Gallery / 済州島・韓国
『Seoksu Art Project 2009』, ソクス市場 / 安養・韓国
2008 『TAP2008』, 井野団地 / 茨城
『ongoing FES』, Art Center Ongoing / 東京
『メトロポリスで会いましょう』, Art Center Ongoing / 東京

アーティスト・イン・レジデンス

- 2013 La Ene Artist in Residence Program / ブエノスアイレス, アルゼンチン
2011 文化庁新進芸術家海外研修制度、カナダ滞在
Visiting Artist, University of Alberta / カナダ
2009 Seoksu Art Project 2009 / 安養, 韓国
2008 TAP2008 / 茨城

※本展に関するお問い合わせは、下記連絡先までお願いいたします。

waitingroom (代表: 芦川朋子)

住所: 東京都渋谷区恵比寿西2-8-11 渋谷百貨ビル 4B

営業時間: 月 (17-23時)、金土日 (13-19時)

Tel&Fax: 03-3476-1010 Eメール: info@waitingroom.jp